研究（その２）

グローバルな視野で多面的・多角的に社会的事象を捉え，自分ごととして行動する力の育成

－地理的分野「世界各地の人々の生活と環境」の実践より－

（実践者）江角　紀行

１　研究テーマ設定の理由

地球規模で進行する環境問題や不安定な世界情勢，日本の少子高齢化やそれに伴う社会保障費の増大等，現代社会は急速に変化している。次期学習指導要領では，そのような複雑で変化の激しい社会に生きる社会的存在としては，固有の組織のこれまでの在り方を前提としてどのように生きるかだけではなく，様々な情報や出来事を受け止め，主体的に判断しながら，自分を社会の中でどのように位置付け，社会をどう描くかを考え，他者と一緒に生き，課題を解決していくための力が必要となる，と記載されている。

このような状況の中で，生徒にはよりよい未来や自分の姿を構想し，その実現に向けて国内のみならず地球規模で社会的事象を捉えさせたり，物事を多面的・多角的に吟味して見定めさせたりして，自分ごととして行動させることが重要である。また，課題解決に向けては，他者に自分の考えを根拠とともに論理的に説明しながら，対話や議論を通じて相手の考えを理解したり自分の考えを広げたりして，多様な人と協働できることが大切である。そして，これらの資質・能力を養うことが，「持続可能な社会」の担い手を育成する上で不可欠と考え，本研究テーマを設定した。

２　研究の内容及び方法

本年次は，次の「研究の内容及び方法」により，研究のテーマの具現化に迫ることとした。

（Ⅰ）　問題解決的な学習の充実

自分ごととして主体的に社会的事象と向き合い，多面的・多角的に捉え，社会的な見方や考え方を身に付けることができるように，単元構成や資料の精選，問いの設定を工夫する。

（Ⅱ）　「きょうどう」の精神を発揮する学び合いの充実

生徒がお互いに協働学習者であるという意識をしながら，自分の考えを広げたり深めたりさせるために，学習形態を工夫する。また，論理的に考え，根拠をもとに他者に分かりやすく伝えることができるように言語技術の支援を行う。

（Ⅲ）　資質・能力が育つ評価の工夫

「逆向き設計論」に基づく学習展開やパフォーマンス課題の活用により，生徒自身の能力の変容や成長を実感させる。

３　研究の実際

(1) 生徒の実態

本学級の生徒は，年度初めに実施した学習アンケートより社会科が「好き」と解答した生徒が70％おり，授業内で多くの生徒が活発に挙手し発言するなど社会科に対して意欲・関心が高い。また，６月に実施された実力テストでは，学年平均点が81点に対して，クラスの平均点が84.1点と基礎・基本が身に付いている生徒が多い。しかし，一方で前述のアンケートにおいて「社会で起こっている問題や社会的事象について学習する時に，色々な立場や視点から捉えようとしているか。」の項目では「捉えている」と回答した生徒が43％,また持続可能な社会を築くために,社会の一員として自分も行動したいと思うか」という項目には，「行動したい」と回答した生徒が40％と二つの項目についてはどちらも低い結果となった。このようなアンケートの結果や授業の様子から，本学級は，社会科への関心は高く，基礎・基本の内容を身に付けているものの，社会的事象を多面的・多角的にとらえたり，社会や世界の問題を自分ごととして考え行動しようとし

たりすることが不十分な生徒が多いことが分かる。

(2) 論理的に思考し表現する力を高めるための工夫

社会科では，教科領域の論理的思考力・表現力を「事象や問題の背景を熟考（時間的・空間的な視野をもって多面的・多角的に考察する）して自分の意見や考えを持ち，その根拠を明確にして表現する力」とし，これを発揮しながら単元の目標に迫れるように以下の２点を工夫しながら指導に当たりたい。

一つ目は，問題解決的な学習の充実である。単元のねらいに迫らせるために，単元を貫く学習問題を設定したり，世界各地の人々の生活や環境の多様性を理解させるために，その背景となっている自然的条件や社会的条件と関連付けて考察させる学習の場面を設定したりした。

二つ目は，論理的に思考し表現する学び合いの充実である。小集団活動が単なる話合い活動に留まらず，質の高い学び合いの場となるように，全校体制で取り組んでいる６Ｗ１Ｈ（いつ，どこで，誰が，なぜ，何が，どんな，何のために）を意識させ，言語活動の成果を働かせながら発表させた。また，ワークシートには，定型文や白地図を用いさせたり，グループの意見の発表時には思考の流れを視覚化するツールを活用させたりすることで，生徒が論理的に考え，根拠をもとに他者に分かりやすく伝え発表できるように支援した。

(3) 授業の実際

ア 指導の実際

(ｱ) 概要

単元　世界各地の人々の生活と環境（全８時間）

単元目標

世界各地の人々の生活の様子や変化を自然的条件や社会的条件と関連させて考え，他者に分かりやすく説明できる。また，世界各地の国や地域で起こっている生活の変化や問題に気が付き，よりよい社会を実現するための方策を考える。

本質的な問い

世界各地の生活が変化しているのはなぜだろう。

永続的な理解

世界各地の人々の生活や環境の多様性に気が付き，人々は自然的条件や社会的条件の影響を受けながら，その条件を生かしたり克服したりして生活していることを理解する。また，世界各地で起こっている生活の変化や問題について，自分ごととして捉え，主体的に方策を考えることが大切である。

評価目標と評価方法

評価目標（観点）	評価方法（視点）
①世界各地の生活と環境の多様性に関心を持ち，意欲的に追求しようとしている。 ②世界の国や地域で起こっている生活の変化や問題に気が付き，よりよい社会を実現するための方策を考えている。　（関心・意欲・態度）	◎パフォーマンス課題 みなさんは，松山市内の各中学校の代表者が集まり，これまで授業で学んだことや自分の考えを発表する「社会科スピーチコンテスト」に参加するため，県武道館に来ています。今回のテーマは，「世界各地の生活が変化しているのはなぜか」です。みなさんなら，どのようなスピーチをしますか。学習したこと（事実）を根拠として，スピーチ原稿を考えなさい。 （評価目標の②③） ○ワークシート　（評価目標の①③④⑤） ○ペーパーテスト　（評価目標の⑤）
③世界各地の人々の生活の様子や変化を自然的条件や社会的条件と関連させて考え，他者に分かりやすく説明できる。（思考・判断・表現）	
④世界各地の人々の生活と環境の多様性に関する資料から，有用な情報を適切に選択して，読み取ったり図表などにまとめたりすることができる。　（資料活用）	
⑤世界各地の人々の生活や環境をグローバルな視野で捉え，その多様性を理解している。 （知識・理解）	

パフォーマンス課題についてのルーブリック（スピーチ原稿について）

評価Ａ	評価Ｂ	評価Ｃ
【学習した事実】を根拠として示し，テーマに合っている。	【学習した事実】を根拠として示しているが，テーマに合っていない。	【学習した事実】を根拠として示していない。

指導計画（全８時間）

次	学習内容	◇評価規準（観点）	時間
1	○外国での生活や外国への旅行の体験者から現地の話を聞き，学習問題「世界中の人々は，どのように生活をしているのだろうか。」に対する考えを記入する。 ○世界のどこに，どのような気候が広がっているかまとめる。 ○グループごとに決められた地域について，班員で分担して衣食住などのカテゴリーを調べて発表し合ってまとめ，多面的に生活を理解する。 ○同じ気候帯に属する別の地域，同じカテゴリーで別の気候帯と比較して，「共通点」や「地域によって異なる点」を見い出す。 ○グループで追求した内容を全体の場で発表し合い，多角的に世界の生活や環境を捉え，その多様性に気が付く。また，世界の生活の多様性を自然的条件と社会的条件を関連させて考察する。 ○学習を振り返り，学習問題について考察し，まとめる。	◇世界の気候区分とその特色を理解し，その知識を身に付けている。 （知識・理解） ◇自分たちが担当する地域について，関心を持って追求し，その際に有用な資料を取捨選択して，活用することができる。 （興味・関心／資料活用） ◇世界各地の人々の生活や環境をグローバルな視野で捉え，その多様性を理解し，人々の生活や変化を自然的条件や社会的条件と関連させて考察をしている。 （知識・理解／思考・判断・表現）	6 本時 （その５）
2	○新たな学習問題「世界各地の国や地域で，どのような生活の変化や問題がおこっているのだろう」について世界の多様な現状を知る。 ○パフォーマンス課題について考察し，まとめる。	◇パフォーマンス課題を追求する際に，問題を自分ごととして捉え，意欲的に方策を考えている。 （関心・意欲・態度）	2

(ｲ) 本単元における指導と評価の工夫

(Ｉ) 問題解決的な学習の充実

持続可能な社会に向けた実践力を育むための問題解決的な学習の充実を図った。まず，生徒に社会的事象を身近に感じさせ，主体的に追求させるために，導入において外国での生活経験のある生徒や教師の話を聞かせ，世界各地の生活の多様性について大まかに捉えさせた。そして，本単元のねらいに迫らせるための単元を貫く学習問題「世界中の人々は，どのように生活しているのだろう」を設定し，学習前の段階でこれまでの生活体験や既習事項を基に，予想を記入させこれからの学習への動機付けを図った。

生活の様子や変化を自然的条件や社会的条件と関連させて考察する姿

検証・深化の段階では，社会的事象を多面的・多角的に捉えさせるために，まずは「衣」「食」「住」「その他」といった生活の異なったカテゴリーから世界各地の生活の特色を追求させた。次に，同じ気候帯に属する別の地域との比較，さらに同じ生活のカテゴリーで別の気候帯と比較させることで，「共通点」や「異なる点」に気付かせ，社会的な見方や考え方を広げたり深めさせたりした。また，学級全体の場でグループご

とに追求した成果を発表させ，グローバルな視点から世界各地の生活や環境の多様性を理解させた。発表の際には，白地図を活用させ，追求した成果などを効果的にまとめさせることで，「どこに，どのようなものが，どのように広がっているのか」といった地理的な見方を身に付けさせた。

本質的把握の段階では，「世界各地の生活に影響を与えているものは何だろう」という問いを設定し，社会的事象とそれを成り立たせている背景や要因に着目させ，世界各地の人々の生活の様子や変化を自然的条件や社会的条件と関連させて考察させた。

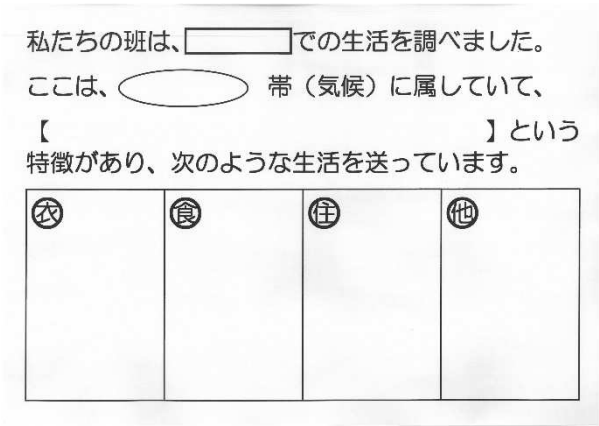
学習終了後，再び単元を貫く学習問題「世界中の人々は，どのように生活しているのだろう」について記入をさせ，学習前の自分の記述と比較させることで，単元を通してどのように自己が変容したり成長したりすることができたか気が付かせるようにした。

「衣」「食」「住」「その他」の多面的な視点から追求し発表

(Ⅱ)「きょうどう」の精神を発揮する学び合いの充実

持続可能な社会を支えるために必要な資質や能力の一つが，多様な人々と協働していく力である。本実践では，そのような視点から学習問題を追求させる際に，ジグソー学習の手法で，お互いが協働学習者であるという意識をしながら，グループ内で一人ずつ「衣」「食」「住」「その他」というカテゴリーを担当させ，一つの国や地域を一緒に追求させ，まとめさせた。そして，小集団活動が単なる話合い活動に留まらず，質の高い学び合いの場となるように，論理的思考力や表現力を発揮させた。そのために，グループ内や全体の場での発表では，全校体制で取り組んでいる６Ｗ１Ｈ（いつ，どこで，誰が，なぜ，何が，どんな，何のために）を意識させながら，言語活動の成果を活用させつつ発言させた。また，各自やグループのまとめのワークシートでは，定型文や白地図を用いたり，話合いの際に思考の流れを視覚化するツールを用いたりすることで，生徒が論理的に考え，根拠を基に他者に分かりやすく伝えることができるように支援した。

各カテゴリーの専門家が「きょうどう」の精神を発揮し学び合う姿



論理的思考力や表現力の育成を目指した定型文の活用

（Ⅲ）資質・能力が育つ評価の工夫

評価に際しては，社会的事象を自分ごととして捉え，よりよい社会や持続可能な社会の担い手の一人として行動する力を育成するために，パフォーマンス課題に取り組ませ，これまで学習してきた内容や身に付けてきた社会的な見方や考え方を生かしながら追求させる。そして，単なる表面的な知識に留まらせず，適切に活用させながら問題を解決する思考力や社会参画の態度の育ちを見取る。

ｲ 生徒の学びの実際（５／８時間）

(ｱ) 主　題　世界の生活や環境の多様性を理解し，自然的条件と社会的条件を関連させて考察しよう。

(ｲ) ねらい

○世界各地の人々の生活や環境をグローバルな視野で捉え，その多様性を理解している。

○世界各地の人々の生活や変化を自然的条件や社会的条件と関連させて考察している。

(ｳ) 展　開

学習活動（形態）	時間	○教師の働きかけ　・生徒の反応	○指導の工夫　◇評価（方法）
1　前時までの復習をする。 （一斉）	5	○これまでの学習を振り返ろう。 ・世界にある様々な気候帯の区分と特色を理解した。 ・自分の担当する地域の生活を多面的にまとめた。 ・同じ気候帯に属する他の地域の生活には，共通点と地域によって異なる点があった。	○既習内容を振り返らせ，本時の学習に生かせるように支援した。
2　グループでまとめた成果を発表する。 （全体）	15	○グループでまとめた成果を分かりやすく発表しよう。 熱帯地域の生活と環境 乾燥帯地域の生活と環境 温帯地域の生活と環境 冷帯地域の生活と環境 高山地域の生活と環境	○論理的な表現ができるように，定型文や気候区分が記載してある世界地図を活用させた。 ◇世界各地の人々の生活や環境をグローバルな視野で捉え，その多様性を理解している。 （ワークシート）
教師の問い：世界各地の生活に影響を与えているものは何だろうか。			
3　教師の問いに対する答えを考え発表する。 （一斉）	15	・風通しの良い服は，気温や湿度が関係している。 ・アルパカの毛を使用した衣服や帽子は，動物が関係している。 ・羊や馬などから作ったヨーグルトは，人々の工夫や努力が関係している。 ・高床式の家は，熱帯と冷帯で見られるが気温や湿度が関係している。	○世界各地の生活に影響を与えているものを考えさせることで，様々な要素が諸事象を成り立たせることに気が付かせた。 **○論理的で分かりやすく表現できるように，定型文を提示し発表させた。**
教師の問い：世界各地の生活に影響を与えているものを分類してみよう。			
4　自分なりに分類し発表する。 （一斉）	5	・気温と湿度は，同じグループになる。 ・動物は，どこのグループに入るのかな。 ・人々の工夫は，別のグループかな。	○多様な生活様式に影響を与えているものには，大きく自然的条件と社会的条件に分けられることに気が付かせた。 ◇世界各地の人々の生活や変化を自然的条件や社会的条件と関連させて考察している。 （ワークシート）
5　学習を振り返り，学習問題を自分なりに追求する。 （個人）	10	・世界には，様々な自然環境や生活様式がある。 ・各地域に住む人々は，その地域の環境の影響を受けながら生活している。 ・多様な生活様式があり，その背景には自然的条件や社会的条件が関係している。	○単元導入前の記述と比べ，学習後の変容や成長に気付かせた。

ウ　考　察

(Ｉ) 問題解決的な学習の充実

○年度初めに実施した学習アンケートを学習終了後に再度実施した結果，「社会で起こっている問題や社会的事象について学習する時に，色々な立場や視点から捉えようとしているか」の項目では，「捉えている」と回答した生徒が43％から60％に，また「持続可能な社会を築くために，社会の一員として自分も行動したいと思うか」という項目には，「行動

したい」と回答した生徒が40％からと52％に上昇したことから，本学習活動が一定の効果があったと考える。

○単元を貫く学習問題「世界中の人々は，どのように生活しているのだろう」に対する学習前後の記述を比較すると，生徒Ａのワークシートには，「北海道の二重窓や沖縄の防風林のように，世界の人々も気候に合わせて生活している。」から「気温や降水量といった気候だけに限らず，宗教や伝統など様々な自然的条件と社会的条件に影響されて生活している。」のように，社会的事象の背景を気候という一面的な捉えから多面的な捉えに変化しており，学習を通して新たな知識や見方や考え方を身に付けたことが分かった。

○ワークシートや話合い，全体発表の際に，白地図や世界の気候区分の世界地図を積極的に活用した結果，個人のまとめや全体の発表で生徒が意欲的に地図を利用してまとめ，諸事象を比較・関連して考えたり表現したりする姿が見られ，「どこに，どのようなものが，どのように広がっているのか」といった地理的な見方の意識付けに効果的であったと考える。

（Ⅱ）「きょうどう」の精神を発揮する学び合いの充実

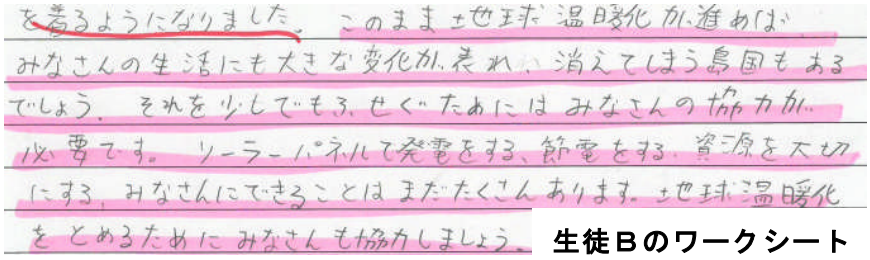
○自分の追求成果はグループや学級全体の追求にも必要であるため，ジグソー学習の手法を用いて，お互いが協働学習者であることを意識しながら追求させることで，自分ごととして学習問題を捉え，学習活動に取り組ませることができた。

○ワークシートや全体発表の際に，定型文を用いることで，生徒は６Ｗ１Ｈを意識しながら考え記入し，話合いの際にもその根拠をもとに他者に分かりやすく伝えることを心掛けている様子が見られた。また，パフォーマンス課題では，多くの生徒がナンバリングして記入しており，学校全体の問答ゲームや各教科での諸活動の成果も出ていると感じた。

（Ⅲ）資質・能力が育つ評価の工夫

○「逆向き設計論」に基づく学習展開によりねらいに迫らせ，パフォーマンス課題の評価の結果，78名中Ａ評価は72名，Ｂ評価は６名，Ｃ評価は０名であり，多くの生徒が世界各地の人々の生活や環境の多様性に気が付き，その背景を多面的・多角的に捉え，人々の生活と関連付けて考察することができたと考える。

○パフォーマンス課題の記述に，生徒Ｂのように世界で起こっている諸問題に対して，自分たちの生活を見直し，改善のために行動を呼び掛ける生徒が７８名中２３名いた。これは，生徒が社会的事象を単なる知識に留めず，自分ごととして捉え，自分の生活と結び付けたり，よりよい社会を築こうとしたりしており，持続可能な社会を支えるための必要な資質能力の育成にも効果があったと考える。


を考えるようになりました。このまま地球温暖化が進めば
みなさんの生活にも大きな変化が表れ、消えてしまう島国もある
でしょう。それを少しでもふせぐためにはみなさんの協力が
必要です。ソーラーパネルで発電をする、節電をする、資源を大切
にする、みなさんにできることはまだたくさんあります。地球温暖化
をとめるためにみなさんも協力しましょう。

生徒Ｂのワークシート

４　成果と課題

「逆向き設計論」に基づき学習の展開を行った本実践は，パフォーマンス課題での評価状況や単元を貫く学習問題への授業前後の記述から，多くの生徒が社会的事象や背景を多面的・多角的に捉え，関連付けて理解することに一定の成果があったと考える。ただ，パフォーマンス課題の評価の結果で多くの生徒がＡ評価であったことから，評価基準の見直しが必要である。また，授業後の学習アンケートの「持続可能な社会を築くために，社会の一員として自分も行動したいと思うか」という項目で「行動したい」と回答した生徒

は52%と低い。今後も，育てたい生徒像を明確にして単元構成や資料作成の工夫を行い，持続可能な社会を支える一員として必要な資質・能力の育成を図りたい。